

# ウルトラ建設探訪記

vol. 12

『ウルトラセブン』に見る高度成長期の建造物

一年間お送りしてきました「ウルトラ建設探訪記」は、今号をもちまして最終回となります。1960年代の高度経済成長期、日本の世情や社会背景を巧みに取り入れて制作された『ウルトラセブン』。そこに登場する当時の建造物にも「時代」や「未来」が反映されており、55年経って訪れてみると、変わらずそこに存在するものもあれば、役割を終えるものもあるなど、時間の流れを感じさせてくれました。そしてそのありし日の姿は、対話と共生を重んじたヒーローの活躍を描いた『ウルトラセブン』という作品のなかで、建設にかかわった人々の思い・記憶と共に生き続けるのです。ご愛読、ご視聴いただきありがとうございました。次回からの新企画にご期待ください。

## 『ウルトラセブン』第47話「あなたはだあれ？」



『ウルトラセブン』55周年記念サイト <https://seven55th.m-78.jp/>

©円谷プロ

## あの時の未来

### 「沿線開発」で誕生したベッドタウン

「たまプラーザ団地」は、1968年に神奈川県横浜市に誕生したニュータウン。東急田園都市線の沿線開発の一環として、日本住宅公団が整備した。1966年に開業した「たまプラーザ駅」周辺の広大な敷地に4～5階建てのマンションが林立している。建築基準法では高さ31mを超える建築物にはエレベーターの設置義務があるため、それを超えない5階建てにすることでコストを抑えたと思われる。こうした大都市周辺のベッドタウンの増加と核家族化が、高度経済成長期以降の日本社会を形成していくことになる。



写真提供：独立行政法人都市再生機構

## セブンの見た街、共生の未来

『ウルトラセブン』第47話「あなたはだあれ？」では、夜行性の宇宙人・フック星人が地上の団地と同じ建物を地下につくり、住民ごと入れ替わって、夜の間に地球侵略を進めようとする。しかし、深夜に帰宅した住民の一人が自分の家族と話が噛み合わず、その計画が発覚。集合住宅の核家族化が進み、宇宙人が隣人になりすましていてもわからないかもしれない…そんな当時の世相を反映し、私たちの社会での“共生”のあり方を改めて問いかけるような内容のエピソードとなっている。

ロケ地の現在の姿や作品に映る建造物を追いかける巡礼散歩へGO!!  
55年前の「未来」、そしてその「現在」を動画で紹介します。



動画のナビゲーターは  
モロボシ・ダン役の森次晃嗣さん。  
二次元コードからぜひご覧ください。



<https://www.youtube.com/@user-qj6md4nz9e>